

2014年8月28日

各 位

## 中外製薬とロシュ社による戦略的アライアンスに基づく 自社製品導出契約の一部変更について

中外製薬株式会社〔本社：東京都中央区／代表取締役会長 最高経営責任者：永山 治〕（以下、中外製薬）は、F. ホフマン・ラ・ロシュ社〔本社：スイス・バーゼル市／CEO：セヴリン・シュヴァン〕（以下、ロシュ社）との戦略的アライアンスに基づく自社製品のロシュ社への導出に関する契約を、一部変更しましたのでお知らせいたします。

中外製薬とロシュ社は、2001年に締結した戦略的アライアンスの基本契約に基づき、両社が創製した製品につき、相互に導出および導入する契約を締結しています。

今般、中外製薬が創製した自社製品につき、ロシュ社が導入する際の権利について、その条件の一部を下記の通り変更いたしました。

### 変更前の取り決め

中外製品の海外（日本・韓国を除く）での開発・販売について中外製薬が提携先を求める場合、ロシュ社が第一選択権を保有

### 2014年8月変更内容

中外製品の海外での開発・販売については、ロシュ社が第一選択権を保有

- ・ 日本、韓国、台湾を除く全世界
- ・ 全ての品目につき early PoC 段階でロシュ社へオファー
- ・ イギリス、ドイツ、フランスにおけるコ・プロモーション権を保持  
（中国については製品毎に協議する）

本変更により、ロシュ社は一律 early PoC 段階で全ての中外製品の導入に関する第一選択権を保有することになり、また、それらについて、日本、韓国、台湾を除く全地域において一括でオファーを受けるメリットが生じます。一方、中外製薬は、early PoC までのグローバル開発実現に向けて資源を集中することが可能となり、また、ロシュ社の開発力・販売力を活用し、海外市場における製品のポテンシャルを最大化することが期待できます。また、ロシュ社が第一選択権を行使しない場合または行使してもライセンス条件の合意に至らなかった場合においては、直ちに自社開発を決定あるいは他のパートナーを探すこととなります。

なお、中外製薬はロシュ社製品について、日本国内での開発・販売に関する第一選択権を保有していますが、この条件については変更ありません。

戦略的アライアンス以降、中外製薬ではロシュ社がグローバルで開発・販売している「アバスタチン<sup>®</sup>」、「パージェタ<sup>®</sup>」、「カドサイラ<sup>®</sup>」といった抗がん剤を中心とする革新的な医薬品を

相次いで国内に導入し、日本のがん医療の進展に貢献して参りました。また、ロシュ社においては、中外製薬が創製した国産初の抗体医薬品「アクテムラ<sup>®</sup>」をグローバルに開発・販売し、100カ国以上の国で承認を取得、昨年はブロックバスターと呼べる規模にまで成長しました。さらに、ロシュ社は中外製薬鎌倉研究所で創製した ALK 阻害剤「アレセンサ<sup>®</sup>」を導入し、「アクテムラ<sup>®</sup>」に次ぐグローバル製品へと成長させるべく、承認申請に向けた活動を行っております。今回の契約内容の変更はこれらの WIN-WIN の関係をさらに強化するものです。

中外製薬およびロシュ社は、今後も、革新的な医薬品とサービスの提供を通じて新しい価値を創造し、世界の医療と人々の健康に貢献するために協働して参ります。

以上